

【熊本県地域婦人会連絡協議会賞】

「オトトケサボウ」を読んで

荒尾市立万田小学校 2年 熊谷 心那

わたしは、このものがたりを読んで、ケサボウがおにいさんにおいしい山いもをとってきていたのに、おにいさんは「のこりものをもってくるのだろう。」ともんくを言い、ケサボウは、とてもかなしかったと思います。そして、「なんでおにいさんはそんなひどいことを言うのかな」と思いました。

おにいさんは、友だちから「おいしいところは、にいさんにもってかえていたよ。」と聞いて、ケサボウに「ごめんなさい」と思ってかなしくなったと思います。まい日、森の中をさがしまわって、おにいさんはケサボウに「まい日えさをとってきて、ありがとう」「ひどいことを言ってごめんなさい」とつたえたかったと思います。

わたしは、1年生のころは、学校へ行くだけでドキドキきんちょうしていました。けど、おにいちゃんが学校へいっしょに行ってくれたり、にもつがおもいときは、もってくれたり、こまったときはいつもたすけてくれています。2年生になって、すこしずつなんでも一人でできるようになりました。おかあさんと、このものがたりを読んで、おにいちゃんに「いつもたすけてくれてありがとう」という気持ちになりました。らい年、おとうとが1年生になります。こんどは、わたしがおにいちゃんみたいに、おとうとがこまったときはたすけようと思います。